



武蔵野小だより

豊かな心を持ち、たくましい子の育成

なかよく かしく たくましく

令和6年5月1日

『聞く』と『聴く』

校長 小島 孝教

校庭の木々の緑が目まぶしく、心が清々しくなる季節となりました。子供たちは、ゴールデンウィーク後半を楽しみにして、学校生活を送っていました。4月26日の引き渡し訓練では、お忙しい中をご来校いただき、誠にありがとうございました。

新学期がスタートし、武蔵野小の子供たちは、新しい出会いに胸膨らませながら、約一ヶ月を過ごしました。大きなランドセルを背負って入学してきた1年生も、学校生活に慣れ始めています。2年生以上の子供たちも、新年度当初の緊張感から徐々に解放され、新たに決めた目標に向けて、学習に運動にと、自分らしさを発揮し始めています。

さて、武蔵野小学校には、3つの徹底事項『むさし』があります。むごん清掃、さきにあいさつ、しずかな廊下です。令和5年度は、この学校だよりでも何回か紹介させていただきました。どの学年も、むさしを意識し、取り組んでいました。なかなか成果を言葉に表すことは難しいですが、落ち着いた学校生活を送れていると思っております。一年間の全校児童と全教職員の目標として、令和6年度も取り組んでいけるように見守っていきたいと思います。

そして、本日のお話集会では、『聞く』と『聴く』の言葉についてお話ししました。『聞く』は、「物音を聞く」「話し声が聞こえる」のように、音や声などが自然に耳に入ってくることです。それに対して『聴く』は、「音楽を聴く」「講義を聴く」「国民の声を聴く」のように、積極的に耳を傾けることを表します。そして、二つの漢字をよく見ると「耳」という文字の大きさが違います。「聞く」をよく見るとは、「耳」の周りに音が迫ってくるように見えませんか。それに比べて、聴くの耳は、大きいですね。さらに、聴くを分解するとどうなるでしょう。大きな耳+目と心となります。

学校にいる時、子供たちにとって聞いている時間がなんと多いことでしょう。教師は、よく「しっかり話を聞きなさい」「背筋を伸ばして」「目を見て」などと指導しています。少しでも、子供たちに深く聴いてもらって、理解を深めてほしいとの思いであります。そして、しっかり聞いてもらえるような授業をしようと、日々、授業の準備や研究を進めたり、学年の先生と話し合ったり、授業を工夫し、改善しております。特に武蔵野小学校の先生方は頑張っています。

話を聴くことのできる子を育てるために、学校も努力を重ねます。子供たちにも繰り返し指導を重ねていきます。ご家庭でも、お子様の学校の様子、最近思っていること、考えていることなど、積極的に耳を傾けていただけたらありがたいです。人の話を聴ける児童を少しずつ増やしていけたらと考えております。

～ 読書活動優秀実践校として表彰されました～

4月23日に、代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、子供の読書活動優秀実践校として、盛山文部科学大臣より、表彰状をいただきました。これは、本校の長年に渡る読書教育が認められた結果です。読書ボランティアのちちんぷいぷいの会の皆様をはじめ、歴代の学校司書の方々、そして、家庭で読書を進めていただいた保護者様、どんどん本が好きになっていった子供たち、皆様の努力が認められたと考えております。読書が好きな子を育てるには、周りの大人が、本を読む本を楽しむ姿を見せることと、手軽に本に親しめる環境をつくることだと言われています。今後も、読書を通して自分の思想を高められる子供を育成してまいります。